

2022年 テーマ一覧

2022 WG ID	サブカテゴリー	研究テーマ名
A 社会課題研究		
2022-A-01	医療・介護	ITを利用した最適な医療サービスを考えてみる
2022-A-02	高齢化社会	高齢化社会を豊かにするIT
2022-A-03	食	農業改革へのIT適用の検討
2022-A-04	食	食品ロス・食料廃棄の削減に向けて
2022-A-05	環境問題	ITを活用した環境への貢献や資源の有効利用について考える
2022-A-06	公共インフラ	ITによる物流革命-配送効率向上を考える
2022-A-07	公共インフラ	キャッシュレス社会に向けた現状と未来
2022-A-08	公共インフラ	多発する自然災害への対応
2022-A-09	公共インフラ	データドリブな都市OS上の新たな公共サービス
2022-A-10	教育	ITを活用した教育機会の格差是正
2022-A-11	教育	リカレント教育の機会提供
B 技術探求		
2022-B-01	AI&クラウド	サーバレスアーキテクチャーのビジネス適用
2022-B-02	AI&クラウド	ハイブリッドクラウド環境の効果的な管理・運用技法
2022-B-03	AI&クラウド	業務システムにおけるAI（機械学習・ディープラーニング）の現実的な適用
2022-B-04	AI&クラウド	アプリケーション開発におけるクラウドAIの有用性と課題
2022-B-05	AI&クラウド	業務データに対するデータサイエンス(分析/機械学習)の現実的な適用
2022-B-06	AI&クラウド	PowerVirtualServer(IBM)を効果的に活用する
2022-B-07	AI&クラウド	Watson OpenScale を使った AI の信頼性の研究
2022-B-08	AI&クラウド	AIはこころを持てるか
2022-B-09	SW Engineering	最高の金融体験の追求 ～本当に欲しい金融サービスとは～
2022-B-10	量子コンピューター	量子コンピューターの活用研究 ー機械学習・量子化学計算・組み合わせ最適化への適用ー
2022-B-11	先進技術	スマートデバイス活用研究
C 情報システム研究		
2022-C-01	システム管理	基盤構築・運用の効率化で自動化の前に考えるべきこと
2022-C-02	プロジェクト管理	デザインシンキングを取り入れたプロジェクト計画
2022-C-03	プロジェクト管理	アジャイル開発におけるプロジェクトマネジメント
2022-C-04	セキュリティ	テレワーク時代に必要なセキュリティ対策
2022-C-05	セキュリティ	ハイブリッドクラウド環境・マルチクラウド環境におけるセキュリティ
2022-C-06	System Infrastructure	レガシーシステムのモダナイゼーションはなぜ進まないのか？
2022-C-07	System Infrastructure	メインフレーム若手技術者の広場
D. ビジネス変革		
2022-D-01	ビジネス戦略全般	ニューノーマル時代のデータを活用した新たな顧客接点と営業戦略を考える
2022-D-02	ビジネス戦略全般	ITが支えるダイバーシティー&インクルージョンがもたらす変革
2022-D-03	組織・人材	DXを会社全体に浸透させるための組織・人材・文化の在り方
2022-D-04	組織・人材	労働生産性向上のための施策
2022-D-05	組織・人材	テレワーク社員の管理と評価方法およびコミュニケーション方法の課題研究

2022年 テーマ詳細

2022 WGID	サブカテゴリー	研究テーマ名	参加対象者	概要	期待される研究成果
A 社会課題研究					
2022-A-01	医療・介護	ITを利用した最適な医療サービスを考える てみる	テーマに興味のある方	医療費用は現在も増え続け、今後も拡大が予想されることから、将来の社会保障にとって大きな問題となります。高齢者の医療、高額医療問題、病院・医師の不足、地域格差、そして、在宅療養での遠隔にいる看護者や家族との連絡・連携など多くの問題があります。これからの時代、最適な医療サービスとは何か、それをどのようにしてITが支えていくか検討し、提言します。	ITを活用した最適な医療サービスの方法
2022-A-02	高齢化社会	高齢化社会を豊かにするIT	テーマに興味のある方	高齢化社会が進む中、社会生活におけるIT利用の機会は増々多くなっています。高齢者にとっての身体面、精神面、交流などの社会的な側面を支える人生100年時代のセカンドライフを豊かにするITシステムとは、について議論します。世界に先駆けて高齢化が進む日本の中で、高齢者それぞれの暮らしと幸せとそれを支える情報技術を考察します。	高齢者のIT利活用推進策、多世代コミュニティの共助を促すITシステム、など
2022-A-03	食	農業改革へのIT適用の検討	テーマに興味のある方	就労人口の減少や働き方改革が課題となっている日本の農業。スマート農業やアグリテックの言葉で代表されるAI、IoT、ロボットやドローンなどを利用した新しい農業の形が脚光を浴びています。一方で産業界と比較して必ずしも進んでいない適用分野も多く、さらなるITの利活用を推進することがイノベーションにつながります。単なる省人化だけではない新しい農業の可能性を研究します。	農業改革についての提言
2022-A-04	食	食品ロス・食料廃棄の削減に向けて	テーマに興味のある方	「2030年までに、飢えをなくし、貧しい人も、幼い子どもも、だれもが一年中安全で栄養のある食料を、十分に手に入れられるようにすること」はSDGsの目標の一つです。途上国では、飢えに苦しむ人が多くいる一方で、私たち先進国では食品ロスが大きな問題となっています。当研究会では、食品ロス、食料廃棄をいかに削減できるかについて、検討します。	ITを活用した食品ロス、食料廃棄の削減方法
2022-A-05	環境問題	ITを活用した環境への貢献や資源の有効利用について考える	テーマに興味のある方	GX(グリーントランスフォーメーション)が新たな経営の価値観となり、カーボンニュートラルを目指す社会での再生可能な資源の有効利用が企業にとって重要な課題となっています。当研究では、これらの課題を解決するため、ブロックチェーンなど様々なIT技術を活用した環境問題解決への貢献について、事例などを通じて、検証・検討します。	ITを活用した環境問題解決や資源の有効利用の施策についての提言
2022-A-06	公共インフラ	ITによる物流革命-配送効率向上を考える	テーマに興味のある方	物流は経済の根幹を支えるモノの流れです。IT化が進んでもモノが動く以上、物流はなくなりません。コロナ禍で通販の需要が拡大する一方で、人手不足の問題、小口物流の増大、宅配などの再配達など、多くの問題があります。当研究会では、AI、IoT、5Gなどを活用した物流の改革を検討します。	AI、IoT、5Gなどを活用した物流の改革の提言
2022-A-07	公共インフラ	キャッシュレス社会に向けた現状と未来	テーマに興味のある方	2020年の日本のキャッシュレス決済比率は19年比2.9ポイント増の29.7%と過去最高の伸び率でした。日本政府は25年に40%を目指すことを目標にしていますが、主要各国は既に40-60%台であり、日本での普及は遅れています。また、QRコード決済など非接触による新たな決済手段の利用が広がっている反面、セキュリティに関する不正事案も発生しています。安全・安心なキャッシュレス決済サービスをいつでも誰でも利用できることが期待されています。本研究ではキャッシュレス決済を取り巻く現状・課題や技術動向を調査するとともに、今後の普及拡大に向けた展望や提言を検討します。	キャッシュレス社会の未来を見据えた社会や企業に対する提言
2022-A-08	公共インフラ	多発する自然災害への対応	テーマに興味のある方	昨今、異常気象などによる自然災害が多発しています。地震、台風による被害、大雨による河川の氾濫など、日本だけではなく世界的な問題になっています。自然災害は未然に防ぐことは困難です。また被災する前の準備の重要性も言われています。そこで本研究テーマでは、自然災害は発生することを前提に、災害をいかに防げるか、また災害発生時の対応を効率良く行うためにITに何が出来るかを議論します。	ITを活用した自然災害対策

2022-A-09	公共インフラ	データドリブンな都市OS上の新たな公共サービス	テーマに興味のある方	2021年デジタル庁の発足により、日本の国全体のDX促進への期待が高まっています。各地方自治体においてもDXは加速するものと想定され、住民の暮らしやすさ、また、地方経済の発展などを旨としたデータドリブンの都市OS構築がフォーカスされてきます。当研究では、未来に向けた新たな公共サービスのDXが各地方自治体にもたらす“価値のある進化”について研究します。	住民と地方自治体が双方に価値を感じる新たな公共サービスDX案
2022-A-10	教育	ITを活用した教育機会の格差是正	テーマに興味のある方	新型コロナで顕在化した遠隔教育システムの未整備、また教育の地域格差、経済状態による教育機会の格差は大きな問題となっています。一方、コロナ禍においても遠隔教育の環境を素早く整えた国も存在するなど、教育機会の格差是正にはITの活用が必須と考えられています。すべての子供たちが公平で質の高い教育を受けることができるよう、当研究会では、ITを活用した教育格差の是正について議論します。	ITを活用した教育機会格差の是正への提言
2022-A-11	教育	リカレント教育の機会提供	テーマに興味のある方	平均寿命が長くなり、働き方が多様化する中、社会人になっても教育の機会を求める人が多くなっています。変化し続ける社会に対応するため、学び続けたいという声は今後ますます強くなっていくと考えられます。教育の機会は、人生の初めで終わるものではなく、生涯続くべきものです。「学び直し」は豊かな人生を送るための重要な要素となっています。ITを利用した効率的なリカレント教育とは？について議論します。	ITを活用したリカレント教育の提供の方策
B 技術探求					
2022-B-01	AI&クラウド	サーバレスアーキテクチャーのビジネス適用	サーバレスアーキテクチャーに関心を持つ技術者 サーバレスアーキテクチャー・サービスの活用を考えている技術者	サーバレスアーキテクチャーとは何か？ AWS Lambda、Google Cloud Functions、Azure Functions 等、仮想化の最終形態と言われるFaaS（Function as a Service）型サービスに注目が集まっています。FaaSを用いたシステムは、IaaSやPaaSと比較して、ステートレスな関数の集まりであることが強制されるため、マイクロサービスの一部にサーバレスアーキテクチャーを適用する事例も多くあります。本研究では、サーバレスアーキテクチャーとマイクロサービスの違いや構成を正しく理解し、FaaSのメリットを活かしたWebアプリケーションの開発技法／事例を調査。サーバレスアーキテクチャーのビジネス適用を、アプリケーション・アーキテクチャーの観点で掘り下げます。	サーバレスアーキテクチャーとマイクロサービスの違いや構成を体系的に整理し、FaaS型サービスのメリットを活かした開発技法を提言
2022-B-02	AI&クラウド	ハイブリッドクラウド環境の効果的な管理・運用技法	サーバ運用経験者（ハイブリッドまたはマルチクラウドの運用経験者が望ましい）	昨今、日本の多くの企業がサーバー環境として「ハイブリッド環境」「マルチクラウド環境」を採用するケースが増えてきています。一方で、ハイブリッド・マルチクラウドを採用したが、効率的な管理・運用に課題を抱えている企業も多くあります。本研究では、ハイブリッド化・マルチクラウド化が急速に進んでいる国内IT市場において、理想的なクラウドを実現させるため、企業が導入するクラウド環境の課題を幅広く捉え、IT基盤の管理運用はどうあるべきかを技術的に掘り下げます。	ハイブリッドクラウド・マルチクラウドを効率的に運用・管理するための課題を整理し、企業が導入する効果的なクラウド環境の管理・運用を提言
2022-B-03	AI&クラウド	業務システムにおけるAI（機械学習・ディープラーニング）の現実的な適用	業務システムでAI（機械学習・ディープラーニング）を活用したいと考えている方	IBMの"Watson"をはじめとしたAIはすでに多くの企業が業務システムへの組み込みを行なっています。ただし、イメージ先行で現実的に適用していくとなると膨大な予算が必要になったり、実際に何をすればよいかよく分からないという現状もあります。本研究では、AIを使った代表的な業務システムの事例（例：問合せ応答システムやマッチングサービス、異常データ検知や不正取引検出のようなプロセスなど）を題材に、AI技術を現実的に適用する際に必要となる手順や課題、適用した効果について考察します。	業務システムにAIを適用していく際の手順や効果検証、および課題を抽出しその対策などを提言

2022-B-04	AI&クラウド	アプリケーション開発におけるクラウドAIの有用性と課題	AI (人工知能) の社内適用をご検討の方	機械学習による予測分析や自然言語処理、画像・音声認識などの人工知能 (AI) 技術を手軽に使える「クラウドAI」の登場で、業務システムやアプリケーションの作り方が変わりました。当研究では、クラウドAIサービスを利用したアプリケーション開発の事例、問題・課題について考察します。「クラウドAI」とは、IBMの「Watson」のほか、アマゾン・ウェブ・サービス (AWS) の「Amazon Machine Learning」、マイクロソフトの「Azure Machine Learning」など、最先端のディープラーニング技術をWeb上で試せるサービスです。	以下の事項を研究の成果として提言 - クラウドAIサービスの提供技術レベル (レベル1～4) 調査資料 - クラウドAIサービスの利活用場面の想定案や実例 - クラウドAIサービスによって引き起こされる問題や課題、および対策案
2022-B-05	AI&クラウド	業務データに対するデータサイエンス (分析/機械学習) の現実的な適用	テーマに興味のある方	DXがさらに促進する社会においてデータ分析や機械学習の特性を理解し、大量かつ多様な業務データに対して様々な新しい技術を利用することはより重要性を増しています。業務データに対するデータサイエンスへの学びを深めることで、データ活用の成功を妨げる要因と現実的な課題解決方法を研究します。	DX社会における新たなデータ活用について提言
2022-B-06	AI&クラウド	PowerVirtualServer (IBMi) を効果的に活用する	IBMi経験者	IBM Power Systems Virtual Serverを研究題材とし、ハイブリッドクラウド環境でのIBMiの効果的な活用方法を検討します。技術検証を通じてPower Virtual ServerのIBMiの特徴や環境構築・運用におけるポイントを整理します。DX推進やBCP対策、その他業務課題に対するPower Virtual Serverの有効性を評価し、オンプレミスと組み合わせたハイブリッドクラウド環境におけるIBMiの今後の活用方法を研究します。	実際のPVSの操作手順を習得し無駄のない利用、また費用対効果のある利用方法を提示
2022-B-07	AI&クラウド	Watson OpenScale を使った AI の信頼性の研究	テーマに興味のある方	AIの利用が進む中、今後、AIには公平性や透明性、説明責任が求められることが想定されます。当研究では公平性や説明可能性といったAIの信頼性 (Trusted AI) について Watson OpenScale を使って学んでいきます。さらに実際のAIのモデルを Watson OpenScale に取り込み、どのような知見が得られるか、また、どのような適用があるかを研究します。	AIの信頼性について、実際のAIモデルを使った適用可能性のまとめ
2022-B-08	AI&クラウド	AIはこころを持てるか	テーマに興味のある方	近年のAI技術は、ビッグデータと結びつくことで膨大な情報を学習し、コンピュータならではの高速処理により膨大な数の経験を通じ、瞬時に意思決定を下すことができるようになりました。人間の感情を理解し適切な表現も行えると言われていました。また脳科学の研究分野もAIに応用されようもなって来ました。これらの進歩の末に果たして「コンピュータは心を持てるのか」という疑問に答えは見出されるのでしょうか？我々にとって「心」とはなんのでしょうか。何が実現できれば「心を持てた」と言えるのでしょうか。AIが心を持つのにロボットの身体は必要でしょうか。これらの課題に対しIT的なアプローチを通して将来の可能性を探っていきます。	AIはこころを持てるか、に対するIT的アプローチによる考察
2022-B-09	SW Engineering	最高の金融体験の追求 ～本当に欲しい金融サービスとは～	金融デジタルサービスに興味のあるすべての方 (ビジネス・IT・その他)	あらゆるサービスにおいてユーザー体験の重要性が叫ばれる中、金融サービスにおいても例外ではありません。本研究会では貯金や支払、借入、運用、保険契約などの金融取引の切り口、または買い物、旅行、エンタメなど消費活動の切り口でテーマを絞り込み、テーマにおける最高のユーザー体験を追求し、デザインを行います。その上で、IBMの金融デジタルソリューションであるDSPを活用した、ユーザー体験の実現方式を研究し、デモアプリケーションの開発を目指します。ビジネス的・技術的制約の枠にとらわれず、自身が本当に欲しい・使ってみたいと思うサービスを一緒に追求していきましょう。	デザインシンキングなどユーザー中心の付加価値を創造する手法について実践を通じて身につけられるほか、プロダクトビジョンから体験やフィーチャーへの落とし込み、またそれらを実現するための具体的な技術の活用方法や開発手法について習得することを目指します。成果物としてはサービスデザインの企画書、概念アーキテクチャー設計書、デモアプリケーションなどを想定しています。

2022-B-10	量子コンピューター	量子コンピューターの活用研究 ー機械学習・量子化学計算・組み合わせ最適化への適用ー	機械学習に関心のある方、および量子コンピューターに関心のある方	2021年日本初・アジア初となるゲート型商用量子コンピューター「IBM Quantum System One」が稼働を開始しました。量子コンピューターは、ますます、様々な分野での活用が期待されています。その分野の一つに機械学習があり、多くの注目を集めています。量子コンピューターを使って機械学習を行うアルゴリズムの調査、実際のプログラミングを行い、機械学習への適用について研究します。	量子コンピューターの機械学習・量子化学計算・組み合わせ最適化への適用について、理論、実装について研究、提言参加者は、量子コンピューターの専門技術分野についての知識・スキルを習得できます。
2022-B-11	先進技術	スマートデバイス活用研究	テーマに興味のある方	スマートウォッチ、スマート家電はもちろん、クラウドファンディング発のスマートタグなど様々な新しいタイプのスマートデバイスが市場に登場し、新しいサービスや価値が提案されています。しかし、日常生活や業務でそのようなスマートデバイスに触れる機会は少なく、積極的に情報収集・研究をしていかないと、トレンドは分かりません。そこで、新たなスマートデバイスの技術的な背景や特徴、その応用について研究します。	スマートウォッチ、スマート家電など様々なスマートデバイスを組み合わせ新しいサービスを提言し、可能な範囲で開発実施
C 情報システム研究					
2022-C-01	システム管理	基盤構築・運用の効率化で自動化の前に考えるべきこと	基盤構築・運用プロジェクトの経験者	システム基盤構築プロジェクトにおいて、効率化の観点でかならずオートメーションは検討の対象となります。ただし、基盤の工数の多くは設計や要件変更、QAやトラブル対応などに使われており、適切な標準化と手順の整備が行われた環境においては自動化による効率化の対象作業となる構築の実作業の占める割合は必ずしも多くありません。本研究では、設計の標準化、プロセスの標準化、アセットの再利用などによる効率化を議論し、結果として自動化の対象と効果を明確にした上ではじめてオートメーションを導入検討する、というアプローチを具体化します。また、運用面においての現行プロセスの可視化からの改善案、SREやインフラのCI/CD、Code as a Serviceの考え方も合わせて研究します。	基盤構築・運用プロジェクトにおける標準化とプロセス最適化、ドキュメント再利用による効率化の対象範囲の明確化と実現アプローチを提示
2022-C-02	プロジェクト管理	デザインシンキングを取り入れたプロジェクト計画	企画担当者などテーマに興味のある方	デザインシンキングでは、プロセスを繰り返してシステムが構築されるため、最初の要件定義に従って開発を行う形態のプロジェクト計画では運営できません。一方で、繰り返すことによりスコープの拡大や品質の不安定さが出る可能性もあります。ビジネスに活用すればイノベーションを起こせるのではと大いに期待されている手法であるデザインシンキング。その利点を活かしかつ、マネージ可能なプロジェクト計画の策定方法を研究します。	デザインシンキングの真の活用方法と価値を提言
2022-C-03	プロジェクト管理	アジャイル開発におけるプロジェクトマネジメント	プロジェクトマネージャー経験者、又は、プロジェクトマネージャーを目指す方	アジャイル開発は、ウォーターフォール、プロトタイプ、スパイラル等と同様に、「開発手法」の一つです。当然、開発手法には、プロジェクト特性によって向き不向きがあります。そのような中で、昨今アジャイル開発への注目度が上がって来ており、大規模開発に於いてもアジャイル開発を採用するケースが見受けられます。しかし、一部のプロジェクトマネージャーにおいては、スパイラル開発と混同してマネジメントし、スケジュールの遅延やコスト増に至るケースも見受けられます。本研究では、アジャイル開発に向いているプロジェクトの明確化、アジャイル開発の様々な開発手法（スクラム etc.）の適正な利活用、そしてアジャイル開発ならではの理想と現実のGAPを洗い出し、どのようなプロジェクト管理を実施して行くべきかを導き出します。	以下の事項を研究成果として提言する。 - アジャイル開発に向いているプロジェクト特性の明確化 - プロジェクトに於いて起こりうるリスクの洗い出し（理想と現実のGAP） - アジャイル開発時のプロジェクト管理の有り方の提言
2022-C-04	セキュリティー	テレワーク時代に必要なセキュリティー対策	テーマに興味のある方	在宅勤務等のテレワークは、リモートでの作業に適した一部の職種で部分的に進められてきました。最近では新型コロナウイルスの影響により、新しい働き方として社員を出勤させずに事業継続を図る動きが急速に進んでいます。しかし、社内の管理部門、研究開発部門等の広い範囲の職種の社員が業務を遂行するうえで必要となる情報資産を外部に情報を持ち出すことによる情報漏洩のリスク対策が確立している企業は多くありません。本研究では、幅広い範囲の職種の社員がテレワークを推進するためのセキュリティー対策について研究し、その実現策を提言します。	テレワークに関する各種機関のガイドライン、テレワークに適した製品の研究、各社の事例等を調査し、幅広い範囲の情報資産をセキュアに外部に情報を持ち出すための対策策定

2022-C-05	セキュリティ	ハイブリッドクラウド環境・マルチクラウド環境におけるセキュリティ	ハイブリッドクラウド環境・マルチクラウド環境に興味がある方	オンプレミスからクラウドへのサーバー移行（リフト）は徐々に浸透してきており、基幹システム的重要データ等もクラウド上に配置されることも珍しくありません。一方で、クラウドは利便性の高さから、設定ひとつで外部への接続経路を構築できる等のセキュリティ事故リスク等も懸念されます。この研究では、クラウド利用が加速する現在において、改めて、ハイブリッドクラウド環境・マルチクラウド環境におけるセキュリティ対策指針を整理・提案します。 ex) スケーラビリティによるサーバ増減が発生するが、その監査ログの取得可否 ex) 悪意あるクラウド環境設定変更によるデータ漏洩等を防止するための施策が必要である。	ハイブリッドクラウド環境・マルチクラウド環境におけるセキュリティ対策（デファクト・スタンダード）の提案、クラウドメリットを活かした利便性ある環境と両立するセキュリティ対策の指針を提言
2022-C-06	System Infrastructure	レガシーシステムのモダナイゼーションはなぜ進まないのか？	システム企画部門、および、メインフレームシステムの担当者	これまで生き延びて来たレガシーシステムは、最適化を繰り返すなどして来ており、大半がオープン化への施策が手詰まりの状況です。この様なレガシーシステムのモダナイゼーションがなぜ進まないのか、多角的な側面から現状の問題とモダナイゼーションのアプローチ手法を研究します。	レガシーシステムのモダナイゼーションに取り組むにあたっての課題を明らかにするとともに、モダナイゼーションへのアプローチ・手法について研究、提言
2022-C-07	System Infrastructure	メインフレーム若手技術者の広場	メインフレーム関連の業務に携わっている若手技術者の方	比較的シニアな技術者が多いメインフレームの現場でどうしても孤立しがちな若手技術者が集り、「キャリア相談」や「スキル習得方法」など本音トークを交えながら最新のスキル習得と情報交換を行います。"ジェネレーションZ（Z世代）"とも呼ばれる皆さまこそが、将来のメインフレームを背負っていく技術者です。積極的な参加をお待ちしています！	メインフレーム技術者不足の解消だけでなく、若い世代がメインフレームの特長や違いを理解すること。また、SNSなどを使って情報発信していけるような機会も提供します。
D.ビジネス変革					
2022-D-01	ビジネス戦略全般	ニューノーマル時代のデータを活用した新たな顧客接点と営業戦略を考える	営業部門/マーケティング部門の責任者及び担当者、テーマに興味のある方	コロナ禍が人々の暮らしを一変させました。これからのニューノーマルの時代には新たな営業戦略が必要とされています。リアルとデジタルのハイブリッドな営業スタイルを実現するための効果的な手法を、顧客の視点から考えると共に、顧客との接点を増やし、案件の勝率を高めるための具体的な効果的な営業戦略とそれを支えるITについて考えます。	デジタルを活用した効果的・効率的な営業戦略
2022-D-02	ビジネス戦略全般	ITが支えるダイバーシティー&インクルージョンがもたらす変革	企画部門、人事部門他、テーマに興味のある方	障がいの有無・人種・性別・思想・文化・出身地などに関わらず、各個人がその能力を最大限に発揮しビジネスに貢献できる環境づくりは多くの企業の経営戦略の一つとなっています。本研究では、D&I推進をさらに加速していくための課題やITを利用した目指すべき姿、D&Iが実現するビジネス変革について考察します。	ITを活用したD&Iの推進で実現するビジネス変革への提言
2022-D-03	組織・人材	DXを会社全体に浸透させるための組織・人材・文化の在り方	役員、経営企画担当者、教育研修担当者を問わず会社全体の改革に興味のある方	多くのリーダーはパンデミックがデジタル・トランスフォーメーション(DX)をさらに加速させるだろうと述べています。各社にてDXの取り組みが進んでいる一方で、意識共有の困難さやDX人材の不足などの課題もあります。DXを担う部門を超えて、会社全体でDXを浸透させて大きな業務改革を実現するための方法を考察します。	組織のあるべき姿、DX人材定義、企業カルチャー変革などの要点
2022-D-04	組織・人材	労働生産性向上のための施策	働き方改革に興味がある方	リモートワークの浸透や働き方の多様が進みつつありますが、依然として、日本人の残業時間は長く、労働生産性は先進国と比べて低いと言われています。その原因や対応策を模索し、ワークライフバランスや働き方改革を実現するための具体的施策を研究します。	海外と比較して働き方の違い、そこから導き出される日本人の労働生産性向上のための具体的施策を提言
2022-D-05	組織・人材	テレワーク社員の管理と評価方法およびコミュニケーション方法の課題研究	企画部門、人事部門、リーダー、マネージャーの方など広くテーマに興味のある方	新型コロナウイルスの影響により自宅、移動中等にモバイル端末を使って働くテレワークが一般的になりつつありますが、人と人が顔を突き合わせて会話しながら働くケースが多い日本企業では社員間の遠隔のコミュニケーションが課題となる場合が少なくありません。また、就労実態を把握しにくいという労務管理の課題、目が届きづらい社員への指示、育成、評価を適切に行えるかと言った課題も解決していく必要があります。本研究では、テレワークを推進するための社員の管理と育成、評価方法について研究し、その実現策を提言します。	テレワークに関する各種機関のガイドライン、テレワークに適した製品の研究、各社の事例等を調査し、社員の管理、育成、評価を適切に行うための方策を提言